



## 美術教育って必要ですか？

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をになう子どもたちへ

日本文教出版



30 ページ▶



10 ページ▶



12 ページ▶



18 ページ▶



21 ページ▶

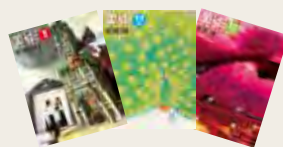
- ③ **特集 美術教育って必要ですか？**  
インタビュー 逢坂恵理子／福岡伸一／柳家花緑  
新学習指導要領 Q&A 阿部宏行／村上尚徳
- ⑩ **学びのフロンティア**  
[小学校向き] みどりの絵 南育子
- ⑫ **学びのフロンティア**  
[中学校向き] ご当地のお土産キーホルダーをつくろう  
山竹弘己
- ⑭ **子どもの絵の見方**  
奥村高明
- ⑯ **まず見る**  
| 第16回 | 動かずに見てみる 成相肇
- ⑳ **村上センセイが行く！ 全国美術室探訪**  
| 第1回 | 京都市立藤森中学校 乾茂樹
- ㉑ **場の設定**  
| テーブルレイアウト編 | 山添 joseph 勇
- ㉒ **ミュージアムエデュケーションのトピラ**  
水戸美術館 森山純子
- ㉓ **中美アプリ通信** スマートフォンアプリ誕生の巻
- ㉔ **ラフスケッチ**
- ㉕ **そぞろみ部**  
| 第5回 | 文字 文:市川寛也 イラスト:danny
- ㉖ **ABC PICK UP**  
阿部宏行
- ㉗ **インタビュー**  
齋藤ちさと
- ㉘ **創造のつばさを広げて**  
こども美術館 スカイミュージアムの取り組み紹介

アートディレクション：清水一（東京矢印）  
編集・ディレクション：山本武義（東京矢印）  
デザイン：東京矢印  
表紙タイトル：ムツロマサコ  
表紙写真：田川友彦／荻原楽太郎／池ノ谷侑花（ゆかい） ※下から

小・中・高をとおして「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。  
これからも「図画工作・美術」を応援します。



小学校図画工作教科書



中学校美術教科書



高等学校美術教科書

# 美術教育 必要ですが



自然の中に溢れている  
美しいもの・ステキなことに  
気付けない人間になってしまう…かも。



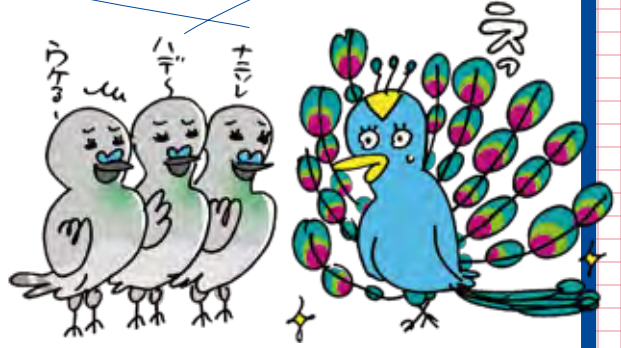
創意工夫のない世界になって、  
何もかも同じものばかりの  
世の中になってしまう…かも。

イラスト：小迎裕美子

## もしも 学校に図画工作・美術がなかったら…？

新学習指導要領が告示された今、  
図画工作・美術での学びとは何か、  
また何をどのように学ぶのかを  
改めて考えてみたいと思います。  
「美術教育がなかったら」  
という観点から、  
各界で活躍される著名人に  
美術教育の必要性について  
語っていただくとともに、  
新学習指導要領の  
理解も深めていきたいと思います。

他者の個性を尊重し、  
お互い認め合うことが  
できなくなってしまう…かも。



正解か不正解かのみが  
重視されて、失敗すること、  
ためすことが許されない世の中  
になってしまう…かも。



# 美術教育がなかったら世界は変わる？

学校での図画工作・美術の教育がなくなったらどうなるのか――

美術教育は何のためにあるのか。

美術、生物学、落語と分野の異なる3名に、それぞれの立場からお話しいただきました。

絵を描く・造形するだけに留まらない、分野を越えて美術教育が育むことができる力について、  
今一度思いを巡らせてみましょう。

学校から美術の授業がなくなる？ 極論を言えば、美術の本質は点数を付けなくてはいけない学校での評価制度には馴染まないかもしれません。でも数字による評価と成果主義が社会全体を覆っている今日、「だからこそ美術は必要なのですよ」と大きな声で言いたいです。

成長過程にあって、子どもは誰でも線や点を描く抽象から、具体的な描き方へと移行して世界を把握し始めます。そして言葉を学び自己表現や伝達の方法を拡張していきます。美術は、人間にとって白か黒かの二者択一的な

判断や数字による評価ではなく、個々の趣向が異なる多様性を学ぶことができる分野です。美術は数学のように正解はひとつではなく、評価は多数決でもありません。違う感じ方や価値観を尊重すること、他の人とは異なる新しいことに挑むこと、自由な発想を大切にすること、自分の身体を使って物事をつくりあげること、作品から刺激を受け、感じ、考えることを学ぶ場です。美術はあいまいで複雑な世界や人間についての理解を深め、人間が人間らしく生きるための必須科目です。

美術教育が人間らしく生きることを可能にする

逢坂恵理子さん

横浜美術館 館長



©Aterui

水戸芸術館現代美術センター芸術監督、森美術館アーティストティック・ディレクターを経て、2009年4月より横浜美術館館長に就任。また2011年以降の横浜トリエンナーレの要職をつとめる。



## ヨコハマトリエンナーレ2017 「島と星座とガラパゴス」開催中

3年に1度の現代美術の国際展を横浜で開催中。世界各地の約40組のアーティストの作品を通して、世界の「孤立」や「接続」の状況を様々な角度から考察します。11月5日まで(10/26休)。

<http://www.yokohamatriennale.jp>



アイ・ウェイウェイ(艾未未)  
《安全な通行》2016  
《Reframe》2016

ヨコハマトリエンナーレ2017展示風景  
(横浜美術館)

撮影：加藤健

©Ai Weiwei Studio

写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会



生物学者

# 福岡伸一さん

驚きとして現れる「美」を受け取る力を育む

美とは何だろう。もとをたどれば生物にとって生存に必要なものが美しく見えたはずだ。逆に言えば、水の青さや果物のみずみずしさを美しいと感じ、それを求めた生物が生き残った。とはいえ、その後、人間は多様な美のあり方に気付いた。変調の美、奇想の美、混沌の美、破壊の美：美術を学ぶことは、生命の進化をたどることであると同時に、人間の文化史を知ることでもある。また自分にとって美しいものとは何かを認識する旅でもある。

私自身は、子どもの頃、昆虫少年だった。カラスアゲハの黒い翅に散りばめられた緑の輝点やルリボシカミキリの青に魅了された。また、イモムシが蛹になり、ついで見事な蝶に羽化する様子に見とれた。こんな劇的な変化（へんげ）が他にあるだろうか。これが私にとっての美の原点である。つまり、美しさはまず驚きとしてやってくる。美術教育には、このような子どもたちのセンス・オブ・ワンダー（自然や世界の精妙さに驚く心）を開き、育むという重要な役割があると思う。

生物学者。1959年東京生まれ。青山学院大学教授・米国ロックフェラー大学客員教授。サントリー学芸賞を受賞したベストセラー『生物と無生物のあいだ』、『動的平衡』シリーズなど、“生命とは何か”を問い直した著作を数多く発表。



センス・オブ・ワンダーを探して  
生命のささやきに耳を澄ます  
著者：福岡伸一、岡川佐和子 出版社：大和書房（だいわ文庫）  
「生きている」とはどういうことか？ —子ども時代の出会いと感動に導かれ、いのちと世界の不思議に迫るハカセとアガワの極上の対話。



落語家

# 柳家花緑さん

さん

想像力を形にする物づくりの精神が人生に生きる

いきなり結論を申し上げて恐縮ですが、美術教育はあった方がいいと思います。その心は、私が美術が好きだったからです。好きという事実が真実を語ることはないと思います。私が、私の場合、小学校時代の図工と中学校時代の美術に救われた身だからです。私には発達障害があります。ADHDです。そして学習障害もありディスレクシア（識字障害）です。図工と美術はもろろんのこと、また小学五年生でピアノを習い始めたこともあり音楽も成績は悪くなかったのですが、それ以外の科目はオール1という成績でした。絵を描くことや、

粘土などで立体物をつくるなど、私にとって想像力を形にできるツールが美術だったのでそれはもう楽しくって楽しくって！クラスの友だちに「バカな小林くん」というレッテルを貼られていても、美術があるから自分の居場所をそこに見付けられたと思うんです。家に帰るとプラモデルをつくったりレゴブロックですつと遊んでおりました。

今、落語家をやっていて美術で学んだ物づくりの精神を生かし、時間をかけて粘り強く作品と向き合えていると思います。美術のおかげです。

1971年東京都生まれ。中学卒業後、祖父である故・五代目柳家小さんに入門。1994年、戦後最年少の22歳で真打昇進。古典落語はもとより、近年では洋服と椅子という現代スタイルで口演する「同時代落語」にも挑戦している。



2017年8月4日（金）発売  
花緑の幸せ入門  
「笑う門には福来たる」のか？  
～スピリチュアル風味～  
出版社：竹書房

<http://www.me-her.co.jp/profile/karoku/>

1  
 ずばり、図画工作における改訂の趣旨は何になりますか。

生活や社会の中の形や色など豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指す。教科の目標を、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を整理し、育成すべき資質・能力を明確化しています。図画工作では「題材」が大きな鍵を握っていますが、題材が先にあるのではなく、「はじめに子ども」があり、「子どもにとって必要な資質・能力を育むのか」を考えることが大切です。

2  
 第1目標(1)及び(2)の文末に、これまで使用されていなかった「できるようにする」が入りました。そのことにより、授業をどのように変えなければならぬのでしょうか。

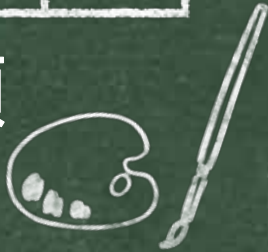
いずれの教科においても、指導の目的が「身に付けることができる」ようにすることを目指しているといえます。ですから、先生は、子ども自身が身に付けるように支援することになります。教師が「させる」のではなく、その学びが子ども主体であるかどうかです。指導にあたっては、「この材料なら、いろいろ触って子どもたちは発想を広げるだろうな」「座席は自然に話し合えるようにグループにしよう」など、子どもが主体的に資質・能力を発揮「できるようにする」授業を考えられます。

3  
 【指導計画の作成と内容の取扱い】  
 1(1)で示された図画工作における「主体的・対話的で深い学び」とは何でしょうか。

図画工作においては、一人一人の子どもが意欲的な活動を積み重ね、つくりだす喜びを味わうとともに、最後までやり遂げるなどの主体的な学び、製作の途中で子ども同士が感じたことを自然に伝え合ったり、材料や作品から働きを受け、自分と対話したりする対話的な学び、「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を育成する深い学びになっているか、という視点で授業改善することが大切です。

Q & A

指導要領  
 に答えます！



小学校図画工作

能力を育む力になるという小・中学校の先生たちから現場のリアルな声に、

4  
 図画工作における「共通事項」は、現行の学習指導要領とどのように変わったのでしょうか。

「共通事項」(1)のAは、現行では「自分の感覚や活動を通して」でしたが、今回の改訂では「自分の感覚や行為を通して」になり、活動全体から「行為」そのものに具体化されています。また、低学年では「形や色などに気付くこと」となっています。中学年は「分かる」「高学年は「理解する」という文末で示されています。これは資質・能力の「知識」のことです。しかし、「自分の感覚や行為を通して」とあるように、前述の「知識」だけを取り出して教えることは意図していません。また、中学校で学習する色相や彩度などを前倒して指導することはありません。

5  
 図画工作において「題材」の重要性は変わったのでしょうか。

解説の第一章総説に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた観点から、題材を「内容と時間のまとまり」として、題材を見通した授業改善の推進を求めています。ですから、題材ごとに育成する資質・能力の「指導事項」を明確に設定する必要があります。その際には、「指導計画」(時間や材料、環境など)を併せて考え、子どもの造形活動を充実させ、学びの質を高める必要があります。資質・能力を基にした題材づくりは、先生自身の指導の改善点を示すこととなります。題材ごとにつくりだされる作品や活動を通して、子ども自身をつくりだしていることと捉える題材観の重要性を示しています。

回答者(1~5)

北海道教育大学 教授 阿部 宏行



6

「造形的な見方・考え方」とは何でしょうか。また「共通事項」との関連性は、どう捉えればいいのでしょうか。

「造形的な見方・考え方」とは、美術特有の物事を捉える視点や考え方であり、感性や想像力を働かせて、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことです。造形的な視点とは、造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目してイメージを捉えたりする視点のことです。「共通事項」は、これらの視点を豊かにするために必要な指導事項です。

7

教科目標にある「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えを、どのように捉えればいいのでしょうか。

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えることは、発想や構想をするときにも鑑賞をするときにも必要になることです。この発想や構想と鑑賞の双方に働く「中心となる考え」を押さえて学習することで、鑑賞したことが発想や構想に生かされ、また発想や構想をしたことが鑑賞に生かされるようになります。それらに関連させて働かせていくことで、創造的な「思考力、判断力、表現力等」の育成につながります。

## 中学校美術

美術教育  
の基準

新学習

先生の疑問

子どもたちの成長や人間形成と深くかわり、多様な可  
図画工作・美術。新学習指導要領の告示を受け、  
らも様々な疑問や相談が寄せられています。そん  
阿部先生と村上先生がお答えします。

8

小学校の図画工作と中学校の美術  
において、目標及び内容構成など  
のつながり方は、どのように捉え  
ればいいのでしょうか。

図画工作科及び美術科はともに、教科  
目標において、生活や社会の中の形や色、  
美術などと豊かに関わる資質・能力を育  
成する教科であることが明示され、さら  
に「(1)知識及び技能」、「(2)思考力、判  
断力、表現力等」、「(3)学びに向かう力、  
人間性等」の三つの柱で整理されました。  
内容は、「A表現」の「(1)発想や構想」、「  
(2)技能」に関する指導項目で整理され、  
「B鑑賞」(1)も含めて図画工作科と美術  
科が共通の項目で示されました。

9

「主体的・対話的で深い学び」の実現  
に向けた授業改善が、今回の改訂の  
大きな要素の一つとなっています  
が、美術の授業の中で、具体的にど  
のように取り入れていけばいいの  
かを教えてください。

授業では、まず、生徒に学習に対する  
興味や意欲をもたせ、主体的な学びに  
なることが大切です。その上で、他者と考  
えを交流する中で思いや考えを巡らせる  
対話的な学びにより、自分一人では気付  
かないことや思い付かないことなどを考  
え、意味や価値をつくりだす深い学びに  
つなげていくことが重要です。美術にお  
ける対話は、言葉によるものだけでなく、  
課題意識をもって作品や制作過程を見て、  
他者の考えを知ることなども含まれます。

10

これまでの学習指導要領で用いら  
れていた「創造的な技能」と、今回の  
改訂で用いられている「創造的に表  
す技能」という言葉には、どのよう  
な違いがあるのでしょうか。

「創造的に表す技能」は、解説に示され  
ている言葉ですが、今回の改訂では、教科  
の目標や内容が資質・能力の三つの柱で整  
理される中で、「知識及び技能」の「技能」  
としての位置付けを一層明確にするため、  
従来の「創造的な技能」という言葉は用い  
ず、「創造的に表す技能」という表現になっ  
たものです。従って、「創造的な技能」と  
意味が大きく変わるものではありません。

「形」では、新学習指導要領についての先生方からの質問を募集します。forme@nichibun-g.co.jp までお寄せください。

回答者 (6~10)

IPU・環太平洋大学 教授 村上 尚徳

中学校





気泡《自由の女神》[0515\_5555]

ラムダプリント  
・  
43.5×65.2cm  
・  
2009年

齋藤ちさと  
1971～

「世界は点(=つぶ)の集積でできている」。  
この原理を美術家として表現してみようと考え、  
”つぶつぶ”をモチーフにした  
「気泡」シリーズにたどり着いたのです。

詳しい解説は  
こちらから▼



学びのフロンティア  
授業実践



葉っぱって、よく見ると形も色もいろいろあって面白い。  
自分がいいと思った葉っぱを1枚だけ探してくるから始まる鑑賞の題材。  
身の回りの自然に目を向け、その形や色のよさ、面白さに  
気付いてもらうために何がポイントになるのかお話を伺いました。

東京都 墨田区立業平小学校  
南 育子 先生



# みどりの絵

葉っぱの形や色から広がる世界

## 一枚の葉っぱ探しを宿題に

授業の一週間前、自分がこれはいいと思った葉っぱを一つだけ見付けてきてくださいという宿題を出しました。一つだけと限定することで、他の葉っぱとの形や色の違いに対して意識が向くようになります。

授業当日、みんなが選んだ一枚を持ち寄り、「グループに分かれて白い板の上に並べていきます。すると、「こんな形のどこにあったの?」「こっちはちよつと赤く見える」など、様々な驚きや発見と出会います。自分が選んだ一枚

## 緑色の絵の具を使わず 自分の緑色をつくる

葉っぱの形や色から想像をふくらませ始めた子どもたちに、次に「みどりの絵をつくらう」と提案しました。絵に表す材料を広げるため、校庭へ出てさらに葉っぱを一人十枚だけ集めます。

絵に表すときには、緑と黄緑の絵の具は使わないようにと伝えました。そのまま緑色の絵の具を使ってしまおうのではなく、緑色をつくることも楽しめるような、そんな造形的な面白さへと意識が

があるからこそ、友だちの選んだ一枚も気になります。葉っぱを見るスイッチが入った子どもたちは、自然と葉っぱを並べたり、組み合わせた見立てたりし始めます。葉っぱの美術館として、隣のグループへ紹介する活動をし、交流しました。



向く抵抗感のようなものを設定したかったからです。そうすることで、最初は「えー!?!」「そんなことできるの?」「とさわめいていた子どもたちですが、自分の緑色をつくらうとチャレンジしたくなってどんどん試すようになり、様々な緑色が生まれることを楽しんだり、色の違いにこだわったりするようになりました。

## 葉っぱから自由にイメージする

子どもたちは、このような葉っぱを鑑賞し感じ取ったことから、

# 指導計画

時間  
四時間

領域  
B鑑賞・A表現(2)

材料・用具  
画用紙、透明シール、ブッカー、セロハンテープ、絵の具セット、はさみ、色鉛筆など

学習目標  
身近な自然の形や色から絵に表す。(みどりの絵)

## 主な学習内容

- いい形や色の葉っぱを選ぶ
- 画用紙の上に並べる
- 透明シールで貼る
- 絵の具や色鉛筆などを使ってかく
- 絵を並べて、みんなで鑑賞する

## 主な評価の観点

造形への関心・意欲・態度  
植物(雑草)の形や色のよさや面白さに関心をもち活動を楽しんでいる。

発想や構想の能力  
葉を並べたり、組み合わせたりした形や色からイメージし表している。

創造的な技能  
形や色のよさを感じながら工夫して表している。

鑑賞の能力  
つくりながら、見ながら、形や色、表現のよさや面白さを感じ取ろうとしている。

## みどりの絵ができるまで

授業 1週間前

### 1 葉っぱを探す



1枚だけ探すという宿題が、身の回りの自然の形や色へと目を向けるスイッチになる。

### 2 並べて見合う



自分で1枚を選んだから、友だちの、そして校庭の葉っぱも見たくなる。見る欲求が刺激されていく。

### 3 自分の緑色をつくる



緑と黄緑の絵の具を封印し、色の違いやよさを感じるスイッチを刺激。色に名前を付ける子どもも。

### 4 自由に絵に表す



感じ取るという経験があるからこそ、様々な発想が生まれ、表したいものが見付かる。

授業 1週目～2週目 (計4時間)

## ◎ 今も昔も変わらない好奇心とチャレンジ精神 ◎

授業の題材を考えるうえで特に大切にしているのは、白頃から子どもたちの行動を見つめ、子どもが面白いと感じること、興味を示しそうなことをキャッチできるようにアンテナをはっておくことです。子どもは、自分からやってみたいと思う気持ちが強いほど、もっとこうしたいという欲求が生まれます。私たちが求められるのは、子どもたちがいかに主体的に発想できる環境をつくれるかだと思っております。

子どもは、これから自分の世界をどんどん広げていく存在です。図工で夢中になった経験や自分で考えやり遂げた経験の一つ一つが子どもの世界をつくります。そして、図工の時間に、発見し驚き、感じ取り、もっとこう

表したいものを見つけていきます。画用紙の上に集めた葉っぱを並べてみたり、色をつくって組み合わせたり、何度も試しながらさらにイメージを膨らませていきます。

イメージはその子の中から生まれてくるものです。それを大切にしたいので、子どもへの気配いたことや見付けたものを言葉にすることで、子どもの中に残っていくように意識しています。

同じ葉っぱという材料、同じス



したいと試しながら育まれた力は、やがて子どもたちの世界が広がったときにも、生かされていく力になります。

昔も今も子どもたちの好奇心や未知のことに挑戦する力は変わらないと思います。その先にある喜びや素敵な自分との出会いを実感できる、そんな授業をしていきたいと考えています。



ターゲットであっても、子ども一人ひとりの発想や表したいものは様々です。その違いやそれぞれのよさを尊重し合えることが、図工の魅力の一つだと思っています。





観山中学校の山竹弘己先生が実践するキーホルダーづくりの授業。

観光資源を探るグループ活動を取り入れたり、見立ての発想を解説したりと、“考える”ことを促す仕掛けをふんだんに盛り込んでいます。

ポイントや工夫した点などについてお話を伺いました。

静岡県 静岡市立観山中学校  
山竹 弘己 先生



## ご当地のお土産 キーホルダーをつくろう

発想を飛ばたかせ、社会とつながる

造形への関心・意欲・態度

ワクワクする設定を与える

今回の授業の題材は「静岡空港での販売を想定したお土産キーホルダーをつくる」こと。生徒のモチベーションを引き出すため、最初に「君たちは倒産の危機にある『観山徽章』という会社のデザイナーだ。ピンチを乗り越えるため、一発逆転のお土産キーホルダーをつくらなければならない」というミッションを与えました。担任の先生を社長に据え、社長の挨拶と会社概要をまとめたホームページ風のプリントを配布。これによって、「担任の先生を助けては！」という意欲を引き出

発想や構想の能力

発想のベースを整える

次に取り組んだのが、「日本の観光資源を探るグループ活動」でした。公立中学には、幼い頃から旅行や観劇などの文化的体験をたくさん経験している生徒もいれば、そうした体験をほとんどしていない生徒もいます。これら「文化資本の格差」が、発想の格差につながってはいけないと考えました。グループで観光資源を出し合っていけば、新たな発見をしながら、共通の知識・認識を得る

したいと考えました。また、版權を買うことができない零細企業であるという設定にすることで、安易にキャラクターを使用することがないよう配慮しています。ただ「キャラクターを使ってはダメ」というのではなく、子どもたちに、楽しく、納得してもらえような形で制約を与えるよう意識しました。



ことができます。そうやって、発想のベースを整えていきました。また、グループ活動のたびにスケッチを行い、思考のプロセスを確認しながら考えを深めていくような工夫をしています。

鑑賞の能力

組み合わせでデザインする

今回制作したのは、楕円形の小さなキーホルダー。大きな画面より小さな画面のなかでモチーフを組み合わせたほうが発想の喜びを感じやすいのではないかと

# 指導計画

時間 十四時間

領域 A表現(2)

材料・用具 真ちゅう板、キーホルダーくさり、耐水ペーパー、ニードル、麻食液、リムーバーなど

学習目標 外国人観光客に好まれるお土産キーホルダーの制作を通して、自国への理解を深め、国や文化による好みの違いを知り、組み合わせによる発想法を身に付け、観察力と思考力を養う。

## 主な学習内容

- 実際に販売されているお土産キーホルダーを鑑賞し、傾向を分析する
- グループで観光資源を出し合う
- モチーフの組み合わせ方を工夫して表現の構想を練る
- 金属やエッチング技法の特性を生かした制作を行う

## 主な評価の観点

造形への関心・意欲・態度 日本で販売されているお土産やキーホルダーデザインを鑑賞し、国や文化による好みの違いや生活を美しく豊かにする美術の働きに関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。

発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて、外国人観光客(クライアント)の好みや国内の観光資源をもとに発想し、モチーフの組み合わせ方を工夫して表現の構想を練っている。

創造的な技能 感性や造形感覚などを働かせて、金属やエッチング技法の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、自通しをもったりしながら、創造的に表現している。

鑑賞の能力 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の意図と創造的な表現の工夫を感じ取り味わったり、日本の美術や伝統と文化に対する理解や見方を深めたりしている。

## お土産キーホルダーができるまで



3 できあがった作品がこちら。このあと実際の商品に近い形でパッケージされ、展示される。



2 エッチング加工に入ると皆集中。夢中で金属を削る子どもたち。



1 ワークシートには、文章を書く欄も用意。工夫した点を言語化することで、より自己認識が深まる。

## 発想の難しさを知ってほしい

美術というのは、絵の上手い下手で、得意・不得意や楽しい・楽しくないが決まってしまうがちな教科です。私が発想のベースを整えるグループ活動やデザインを重視した実践を行っているのは、「知識の絶対量や絵の上手い下手ではなく、発想やアイデアの面白さを体感することで、美術の喜びに触れてほしい」と願っているから。いつも生徒たちに「発想が面白い」「発想が難しい」と感じてもらいたいと思いつながら授業をしています。特に「発想が難しい」と感じてもらうことは重要です。難しいと感じたとい

思い選びました。また、楕円形のフレームであることで、風景やモチーフの切り取り方に工夫が表れたり、面白い見立てが生まれることを狙っています。先輩の作品を並べて見立てについて説明し、切り絵を使って白黒のバランスや線の太さによって作品の印象が大きく変わることを解説すると、それだけで、生徒の発想がバツと花開きます。あとは生徒の力を発揮してもらうだけ。侍のちょんまげをうなぎに見立てた作品、「妖怪」と「なにか用かい？」をかけたダジャレのような作品など、ユニークな作品が



生まれました。完成した作品は、静岡空港で展示してもらう予定です。社会を意識した授業を行い、実際に社会とつながる。こうした取り組みで、「美術を通して世の中を見つめる目」を養ってもらいたいと考えています。

うことは、悩み、考えたという証。自分と向き合い、どうやったら人に伝わるかを考えた証だと思っております。中学校で全員必修の美術の授業は終わります。だからこそ、美術を通して、最低限の知識や深い思考力・社会とつながる力を身に付けてほしいと願っています。





日本文教出版 ずがこうさく1・2下「ざいりょうから ひらめき」

# 奥村先生の 子どもの 絵の見方

#1

# 近づく



「子どもの作品を見る」とは、  
作品から分かる事実と見る側の解釈の繰り返し、  
子どものつくる過程やアイデアを追体験する作業、  
言い換えればつくっている子どもに身を重ねる行為です。

まずはタイトルを見ずに、作品そのものを見てみましょう。  
色画用紙に材料を組み合わせて表した作品です。  
必要なプロセスは、作品に「近づき、たどって、考える」。  
今回は「近づく」です。

近づくと部分や材料しか見えない？

ええ、まさに、そこからいろいろなことが分かるのです。

さあ、想像力を発揮しましょう（^^）



まず、透明な容器でできた目が見えます。生き物ですね。もつと近づきましよう。容器の中に木の実が見えます。揺らすと木の実が動くはずですよ。いろいろ試して生まれた結果でしょう。おそらく、この「動くアイデア」が作品のスタートだと思います。

## 動くアイデア



## まとめ



近づくだけで、その子が発揮した能力  
(動く仕組み、色の調和、空間の構成、メタ認知など) が分かります。  
授業でも、「近づく」ことを通して、子どもの作品の部分に着目すれば  
「どうしてこうしたのかな」「ここで何を思いついたのかな」など、  
子どもの能力にそった対話が可能になるでしょう（^^）





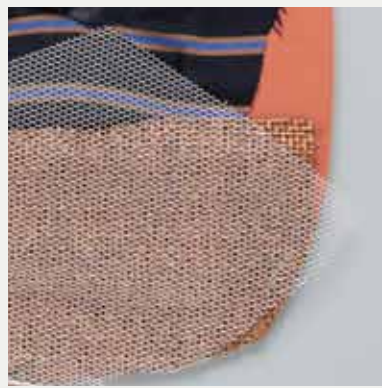
### バランスと表情

目の下には口が見えます。おそらく目には容器のふたの部分でしょう。目のバランスがいいと思ったのではないのでしょうか。そこには枝を輪切りにしたようなものが取り付けられています。ふたの円に重なって、生き物がポカンと口を開けて、声を出しているような感じがします。本人も表情が表せてうれしかったことでしょう。



### 色の調和

生き物の耳に見えるのはコーヒードリップ用のペーパーフィルターですね。ペーパーフィルターは茶色く塗られています。色画用紙の色に近づけようとしたのではないのでしょうか。おそらく、作品づくりの終盤で色の調和を考えたのでしょう。



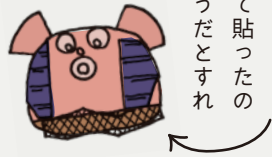
### 材料の選択

目の両側には横縞の布、その下方には粗めの布、さらにガーゼのような布が重ねられています。同じ布はありません。いろいろな材料を選びながら、その効果を確かめつつ、つくったのでしょう。図画工作や美術の学習にメタ認知力を高める効果があるという研究がありますが、納得です。



### 空間の構成

口の真下に星模様の布がありません。これを取った姿を想像してみませんか？ 口の下に茶色の大きな空間が生まれることが分かるでしょう。ここを埋めようとして貼ったのだらうと思われる。そうだとすれば、空間の構成を考えたということですね。



推測した後に、  
感想文や題名を  
読んでみましょう。

くるくる くまさん

カップを並べたら目に見えたので、杉の実を入れて、茶色い画用紙に貼って、くまにしました。くまの耳は、コーヒードリップ用の紙の具で色を付けて貼ったら、ゆらゆら揺れて面白かったです。茶色い布に白いレース(チュール)を重ねたら、色が混ざって驚きました。

(山梨市立岩手小学校 二年生)

やはり、目が揺れるのがポイントなのでね。布の重なりは「色が混ざって驚いた」と書いています。この子にとっての「大発見」だったという意味でしょう。平安時代の「十二単(じゅうにひとえ)」は単なる重ね着ではありません。布の重なりによって多様な色を表現しています\*。先人の工夫と重なる「大発見」は、ぜひ知識としてこの子に伝えて絶賛したいところです。

\*「襲の色目(かさねのいろめ)」日本の伝統的な装束では、複数の衣を重ねるが、当時の絹は非常に薄く裏地の色が表によく透けるため、それを生かして独特の美しい色調をつくった。

# まず見る

## 第十六回

教科書でもよく見かける、おなじみの美術作品。

見た気、知った気になっけても、

いつもと少し視点を変えてみると…、どうでしょう？

まず目の前に見えている要素を丁寧に拾い、

そこから読み解いていくための見方の実験を紹介しています。



## 手

[ブロンズ／39.2×15.2×28.7cm] 1918

島根県立美術館蔵

高村光太郎 [東京都・1883～1956]



## 動かずに見てみる

いくつかの美術館が所蔵しているこの著名な《手》が二つ同時に並ぶという珍しい展示を見て、のけぞってしまったことがあります。あれ、おいおい、ぜんぜんちがうぞ！もちろん作品自体はまったく同じ形。にもかかわらず、片方は仏像の手のように見え、一方は西洋彫刻のように見える。いったいなぜ。

双子を見分けるようにして観察してみると、唯一の違いは、手の像が台座に据えられている角度の、ほんとうにごくわずかな差でした。掌が台座に対して平行になっているバージョンは、もう一方と比べるといかにも神聖で穏やかな印象が勝り、片や少しだけ斜めに向いたバージョンを見てみると、たちまち圧力や動きが感じられるのです。見れば見るほどおもしろい体験でした。同じ型から仏像と彫刻が、別の文脈が、生まれている。いかなればお賽銭と入館料が同じ箱の中に収まっている。ほんのちよつとのひねりによって、時空が転移している。静が動へ、東洋が西洋へ、近世が近代へとジャンプしている！

高村光太郎が、仏像が掌を前に向けた施無畏印（奈良の大仏の手もこの形ですね）に着想を得て、自身の手をモデルにしてこの作品をつくったことはよく知られます。しかしそこで、彼が詩人であったことに引き寄せて抒情的な解釈につないでいくと作品本体から目が逸れてしまいます。異様に緊張した指の形が、光太郎が傾倒したロダンの筋骨隆々の彫刻をいかにも思わせる——これが最も普及した説明ですが、掌に正対して見てみると、意外なほど静かな、たしかに仏像のような落ち着きが現れる。

ぼくが見た二つのバージョンの、どちらが光太郎の意図を汲んだ配置なのかはわかりません。ただあの見え方の驚くほどの違いは、「動かずに」見るこの価値を教えてくれました。むしろこの作品は、きわめて正面性が強いことに気付かされたのです。見る位置を固定すると

き、この《手》は最もそのダイナミズム（もしくはダイナミズムの無さ）を発揮する。そして、眼球ひとつ程度のわずかな差で見え方の文脈を大きくスイッチさせる両義性が、作品に内蔵されている。複数の空間情報が圧縮されて、断続的に埋め込まれている。ぐるりと眺め回したならば、そのドラマチックな両義性は滑らかに解消されてしまうでしょう。立体感や空間と呼ばれるものは、必ずしも全方向から把握されるものではないのです。

### 文

#### 成相 肇 なりあい・はじめ

東京ステーションギャラリー学芸員。

一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員を経て、二〇一二年から現職。

主な企画展に「石子順造の世界」、「ディスカバー、ディスカバー・ジャパン」、「パロディ、二重の声」など。

《今号のひと言》……

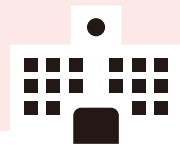
仕事に切羽詰ってコピーロボットを入手したがロボットが飲みに行ってしまうって泣いた、という夢を見ました。今の自分が本人かロボかわからない事態に。

東京ステーションギャラリー「展覧会情報

「シャガール 三次元の世界」

（〜12月3日）

村上センセイが行く!



# 全国美術室探訪

隣の学校は何をしているの？

中学校美術教科書著者である村上尚徳先生が全国の中学校美術室を訪問。“村上先生視点”で、現場の工夫や先生方の美術教育への思いに迫ります。



第1回

京都市立藤森中学校 乾 茂樹 先生

「ない」「せまい」がチャンス!

子どもの発想を広げる工夫に。

設備面でのデメリットを  
ひと工夫で魅力に転化

**村上** 生徒の作品を展示する美術室は少なくありませんが、こちらは画材や工具、教材など、実に様々なモノであふれた美術室ですね。  
乾 藤森中学校には学年ごとに美術室があるのですが、二年生と美術部が使用するこの第二美術室には準備室がないんです。そのため題材や工具、美術部の制作物もそのまま教室に置いてあります。

**村上** 一見、雑多なようでいて、生徒の好奇心を刺激する空間ですね。他の美術室は、また違った雰囲気なのですか？  
乾 第三美術室は準備室がない上、流しもあります。

**村上** 絵の具が使いがらみですね。乾 そこで考えたのが、二枚の紙の間にアルミ箔を貼ってくしゃ



安全でかつ管理もしやすい  
乾先生お手製のニードルの道具入れ



提示された生徒作品が  
他の生徒の発想の刺激に



乾 茂樹

いぬい・しげき

兵庫県出身。1995年より京都市の公立中学校に勤務し、2010年より現職。現在の担当は1年生と2年生。

技能よりも内面を見つめ、  
生徒が秘めた可能性を拓く

本当は水が使えないからなのですが、生徒たちは「先生、すごい！」と喜んでくれました(笑)。教師の着眼点や発想力を試されます。

**村上** 展示された生徒作品も、目を引くものが多いですね。

乾 一年生で「気持ちがかたチになる」というデザイン・工芸の題材

● 藤森中学校 平成29年度 美術科年間指導計画 ●

	4月	8月	12月	1月
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「かくれる、かくれんぼう！」 (絵画:色の学習)</li> <li>● 「見て描く楽しみ」 (絵画:物に込められた「思い出」を描き出す)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鑑賞レポート “美しい”(鑑賞会)</li> <li>● 「古代の願いに迫る！」 (表現:鑑賞)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鑑賞レポート “美しい”(鑑賞会)</li> <li>● 「自分のかたち、自分のいろ —内面を伝える—」 (彫刻:自分を見付ける)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「気持ち伝える、カタチのめくもり」 (デザイン:パッケージデザインの読み解き。自分の考えた雑貨のパッケージをデザインする) (工芸:思いこもった木の雑貨をつくる)</li> </ul>
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「スーパーヒーロー、現る、現る！」 (絵画・彫刻:困ったことから自分を助けてくれるヒーローを表現する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鑑賞レポート “美しい”(鑑賞会)</li> <li>● 「自然にあこがれて」 (彫刻:自然とのかかわりの中で感じた造形美を創造する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鑑賞レポート“美しい” (鑑賞会)</li> <li>● 「和風ってなに？」 (鑑賞、デザイン・工芸:自由選択課題)</li> </ul>	
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「遠近法を学ぶ」 (絵画)</li> <li>● 「生活を彩る、絵画を楽しむ」 (デザイン:アール・ヌーヴォーを生かして) (工芸:絵画に合わせたとり着をつくる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鑑賞レポート “美しい”(鑑賞会)</li> <li>● 「自分の好きなもの」 再発見！」 (彫刻)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鑑賞レポート“美しい” (鑑賞会)</li> <li>● 「きもちの肖像-自画像」 (絵画:15歳のわたしを見つめる)</li> </ul>	



せまい教室用につくられたコンパクトな作品棚

をします。昨年度は、「味や香りを形で表そう」をテーマに、誰とお菓子を食べる？ 家族で食べるなら、クッキーかな？ クッキーは甘いけど、甘い味・香りってどんな形・色だろう？ と、お菓子のパッケージを5W1Hに落とし込み、物語性をより細かく設定させることで、立体物を具体的な形や色で表現しやすくしていきましました。絵手紙のような水彩画は、絵が苦手な生徒でも、言葉添えることで着眼点や発想の素晴らしさを観る者に伝えられる題材として実践したものです。

村上 技能に偏るのではなく、生徒の視点や感性などを引き出す指導を重視されているんですね。乾 生徒の着眼点には驚きすら感

じます。一年生の鑑賞の「美しいものを探そう」という授業で、ある生徒が二匹の蝶が飛んでいる写真を撮ってきました。でも、特に美しい写真ではありません。すると、その生徒が言うんです。「蝶が二匹、仲良く飛んでいる。その関係が美しいんだ」って。それを聞いて私も他の生徒たちも、美しいものの意味に気付かされました。

**感性や発想力の育成は、美術教員だからできること**

私が美術を好きになったのは、中学生のとき。美術の授業でつくったペーパーナイフを先生が褒めてくれたことの嬉しさが忘れられなかったんです。

その嬉しさを自分の生徒たちに体験させてあげたい。そのためにはオリジナルな題材づくりにも励むし、生徒が伸びるのだったら、他校で実践されている題材や指導もどんどん取り入れます。

生徒たちの感性や視点、発想力は、「できる・できない」「上手い・下手」だけで測れるものではありません。そんな力を伸ばせるのは、中学九科目の中で「美術」だけだと思っています。

探訪を終えて…



村上 尚徳  
むらかみ・ひさのり

岡山県出身。IPU・環太平洋大学副学長、次世代教育学部教授。岡山市立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て、文部科学省教科調査官、及び国立教育政策研究所教育課程調査官。2011年より現大学に。平成20年の中学校美術、高等学校芸術(美術・工芸)の学習指導要領改訂を担当。平成29年の改訂は協力者として参画。現在、日本文教出版中学校美術、高等学校美術教科書著者。

今日、藤森中学校の美術室を訪問し、乾先生の取り組みを聞かせていただいて、生活の中の造形に気付き、感じ取り、自ら考える教育の大切さを改めて実感しました。そして、そうした教育を実践していくには、教師自身が生活の中の造形と豊かにかかわり、感性や創造性を育むことが重要だと感じました。

準備室がないからこそ、刺激に満ちた創造空間となった藤森中学校・第二美術室。乾先生の工夫や発想には驚かされますが、それがが美術の本質なのかもしれませぬ。

対談の動画は Webでご覧いただけます。

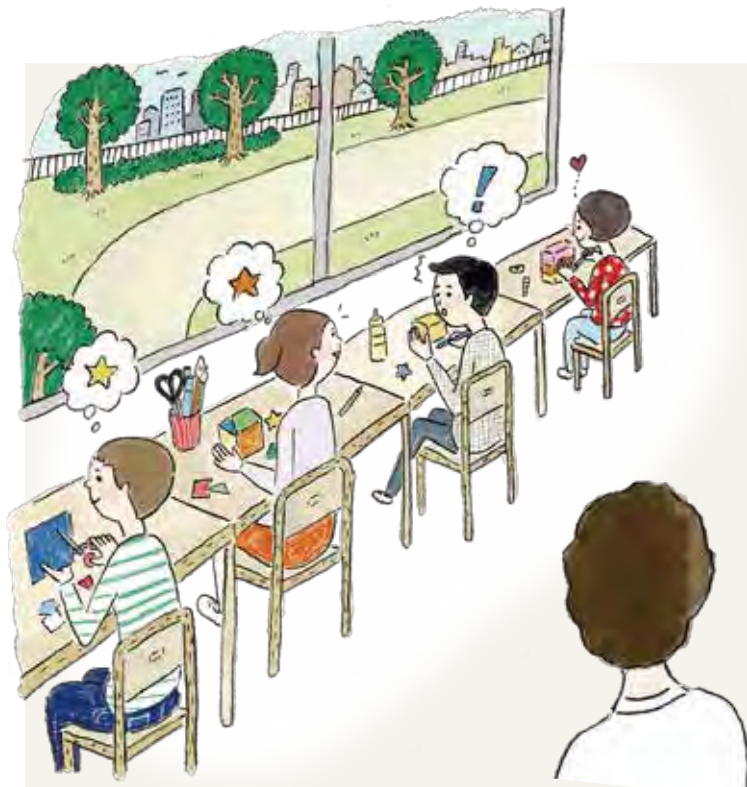


主体的・対話的で深い学びのための

# 場の設定

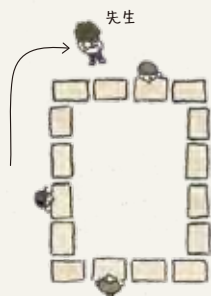
## テーブルレイアウト編

文：山添 joseph 勇  
美術家/深沢アート研究所



授業には、材料の準備、導入の用意、声かけの意識など、とても労力のかかる「場」が必要になりますが、室内のテーブル配置を変えることで、同じ題材であっても、広がりや可能性が生まれ、「つくることにおける、よい雰囲気や気持ちよい空気」のきっかけができます。

a 全員内向き型



b 全員外向き型



かぎカッコ型



サークル型



点在型



### 変化はときどきが新鮮でいい

ときどきテーブルレイアウトが変わるだけで、「たのしい図工」「なにかドキドキできる図工」となるような仕掛けができます。例えば、机を内側に向けて囲って、絵をかいてみる。子どもたちは自然と視野に入る全体を意識するため、輪の中の一人という単位になり、つくることが気楽になる子がいるはず。また、逆に外向き（壁や窓向き）に机を向けてみると、今度は開放的（もしくは壁に向かう閉鎖的な開放）になり、個を重視できる場になります。

ただし、毎回工夫されたテーブルレイアウトでは新鮮さを欠くので、ときどき変える、ちょっと変えるくらいが、子どもにとっても安心して気持ちよい変化です。

### 簡単なテーブルレイアウト

授業でもっとも簡単な場の変化は、先生の位置や役割を変化させることです。

机をみんなで左向きに変えて、先生も左側へ移動して指導する。同様に後ろ向きに変えて、先生も後ろから指導するだけでも、いつもと違う雰囲気に変化します。

先生の説明がたびたび必要ときには、先生中心のテーブルレイアウト、先生も一緒につくっているときには、中心（指導者）のない、子どもの動きが比較的自由な感じのテーブルレイアウト。また、テーブルを使わず床でつくる、廊下でつくる、教室にテーブルがないなど、様々な場が考えられます。

### 子どもの活動を意識する

テーブルを合わせてグループをつくれば、材料や道具を共有したり、子どもがお互いのつくっている作品や制作過程を見たりすることができます。その反面、グループの中の人間関係に影響されて、同じグループの誰かを気にしたり、他のグループとの違いが気になったりするかもしれません。「気持ちよくつくる」「楽しくつくる」という雰囲気づくりからはなれた活動になっていることもあるかもしれません。

どういったテーブルレイアウトにするかが大切なのではなく、テーブルレイアウトが子どもたちに対してどのような影響を与えているのか、子どもたちがどう活動しているのかを感じる意識が大切です。

参加者たちのアンケートでも

「様々な人が行き交う駅のような場所」

「自分の背負っているものをリセットできる！」など、多くのうれしい声が寄せられています。



アーティストも含め、様々な人たちがフラットな関係で交流でき、何かを始める自由も、何もしない自由も保たれていることです。生徒たちには、世の

実施プログラムの立案は、参加者からも柔軟に取り入れています。「写真部」や「放送部」な

先生や生徒たちとのつながりをより深く。

ウィークを体験した方々が後に大学の職員やアーティスト、デザイナーとなつて手伝いに来てくれたり、ブカツの顧問を担当してくれ



「写真部」の活動風景。

らお互いに補い合えるよう連携しているとうれしいですね。



森山純子

水戸芸術館現代美術センター  
教育プログラムコーディネーター



撮影：仁木 基

水戸芸術館

茨城県水戸市五軒町 1-6-8  
TEL. 029-227-8111 (代)

▼高校生ウィークアーカイブ部はこちら  
<http://hssw.arttowermito.or.jp/>

ミュージアム  
エデュケーションの  
トピカ

ひらけ!

## 水戸芸術館

## 高校生ウィーク

美術館の「教育普及」の取り組みをご紹介します

教育普及(ミュージアム・エデュケーション)とは美術館や博物館で展示と並行して行われている、美術や文化を主体的に学ぶことを支援するための様々なプログラムのことです。各地の特色ある企画によって、ミュージアムへのかかり方は多様になっています。今回は、水戸芸術館現代美術センターの活動の一つである「高校生ウィーク」について、担当の森山さんにお話を伺いました。

はじまりは、  
高校生の無料招待から。

開館二十七年目を迎える水戸芸術館は、時に難解とも言われることもある現代美術の中でも若手の作家や海外アーティストを積極的に紹介して、当初から地域の方々への理解を広げることが大きな課題でした。特に高校生は美術館とのかかわり

が希薄な年代と言われていますが、多様な価値観を学ぶ題材として現代美術を活用してほしいというところから、高校生など十代の若者が毎日利用できる「ハイティーンパス」が発行されました。そ

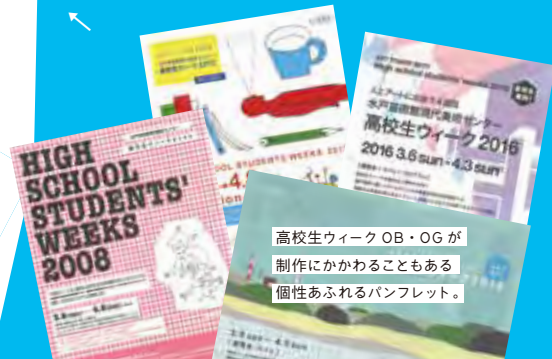
ペンキ塗りなどの準備から「高校生ウィーク」のはじまり。

の普及を目的に市内の高校に向けて平成五年に一週間の無料招待を行ったことが「高校生ウィーク」の出发点です。当初は作家などによるレクチャーが中心でしたが、その後、会期中の企画展のポスター制作など、高校生が主体的

参加者の姿を見て  
学んでいける場所へ。

に参加できるワークショップや、来館者が誰でも利用できる無料カフェの運営を始めました。毎年一カ月間にわたり、数々のプログラムを行っています。

徒の特性を生かす取り組みを行ったり、シニアの方々も制作した作品を展示し、積極的に多世代の人々が集まるような試みも実施しています。大切なのは、



高校生ウィークOB・OGが制作にかかわることもある個性あふれるパンフレット。

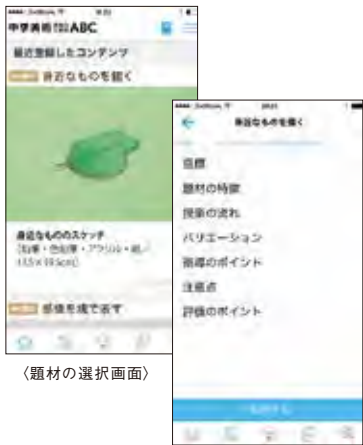


# 「一人じゃないんだ!」 美術教師のそばに寄りそうiPhoneアプリ誕生!!

## 「題材をさがす」

「学習のねらい」から  
題材検索ができます

題材選びに困った時に便利な機能。  
題材それぞれにポイントを絞った  
解説も掲載しています。



〈題材の選択画面〉

〈題材の詳細画面〉

## 「指導のヒントABC」

授業力を高めるポイントを解説

授業・指導のふとした疑問に答える  
ヒントが見つかるはず。わかり  
やすくマンガでの解説している記事  
もあります。

新学習指導要領の  
関連記事も公開予定



〈掲載のマンガ記事〉

〈掲載の解説記事〉

## 「先生の声」

「各校一人といった美術教師には  
とても頼もしい内容」

神奈川県 Y先生



「マンガは、まるで  
若いころの自分を見ているように  
描写されている」

神奈川県 M先生



日文Webサイトで  
アプリの感想・意見を  
募集しています。

日文 中学美術 検索

中学校の美術の先生  
全員が使えるiPhoneアプリ!!

# 中学美術 先生のための ABC

無料

ダウンロードはこちらから

右記のQRコードを読み取りApp Storeに移動してください。または、「App Store」アプリから「先生のためのABC」を検索しDLをしてください。

○推奨環境  
iOS : 8.0, 9.0 / 端末: iPhone6, iPhone6S  
ご使用の際にはインターネット通信環境が必要です。  
※OS、端末のバージョンアップ等により  
ご使用できない場合があります。



Apple, Apple のロゴ, Apple Pay, Apple Watch, iPad, iPhone, iTunes, QuickTime, QuickTime のロゴ, Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスのもとでご利用されています。App Store, AppleCare, iCloud は、Apple Inc. のサービスマークです。  
TM and R 2017 Apple Inc. All rights reserved.

図画工作、美術の授業で学んだ内容を生かすことで、どんな世界が広がり、どんな未来が描けるのでしょうか。各地で活躍する高校生にスポットを当ててご紹介する「ラフスケッチ」。今回は、地元山梨県富士吉田市の郷土食「吉田のうどん」を全国に広めるべく活動する、うどん部部長の中野さんにお話を伺いました。

山梨県立ひばりが丘高等学校  
なかのりきや  
中野吏希矢さん

在学中にうどん屋を開店する予定です！

山梨県立ひばりが丘高等学校  
うどん部

郷土食「吉田のうどん」の普及促進のため、フリーペーパーの制作をはじめ、Webサイトでの情報発信、イベントでの営業活動などを行っています。

<http://udonkankoutaishi.client.jp/>

「うどんナビ」  
最新号中面と  
第5号表紙

●中野さん  
(部長・3年生)

●今野さん  
(次期部長・2年生)

「うどんナビ」の制作を通じて、うどん店をはじめ、富士吉田市民や製麺所、役所の方々など、学校内での活動だけでは出会えない地域の様々な方と交流することができました。こうしたものづくりを通して人とつながる経験を卒業後の人生にも役立てていきたいですね。

「吉田のうどん」は子どもの頃から馴染みのある郷土食ですが、近年、後継者不足などが原因で市内のうどん店が減少傾向にあります。そこで何か僕たちにできることはないだろうかという思いから、二〇一二年に吉田うどんを紹介するフリーペーパー「うどんナビ」の制作をはじめました。

第一号では掲載店舗数が三七店、約二千四百部の発行でしたが、最新号の第六号では紹介する範囲を山梨県内にまで広げ、一五店、約六万五千部まで増えました。過去の反省から、あまりプロっぽい誌面にならないよう、ポップでシンプルな高校生らしいデザインを心がけ、読者からも好評を得ています。

誌面全体の構成やデザインなどは、先生も交えてみんなで話し合いながらよい意見は積極的に取り込むようにしています。また、メインの写真が読者の印象を左右するため、撮影時はライティングやアングルに気を付けるとともに、麺や具材の見え方、汁の量などを調整しながらおいしく見えるよう配慮して制作しています。画像調整や編集作業では難しい部分もありますが、取材や撮影含め技術的なことは先輩や先生に随時教えてもらっているため、各部員のレベルが自然と揃っているのかなと思います。また、最新号には市民モデルを募って誌面に登場してもらいました。それぞれの店を地元の方のおすすめポイントと併せて紹介することで、今まで以上に親近感をもって読んでいただけていると思います。

地域貢献のためのものづくりを通じ、人としての社会性が成長。



「うどんナビ」創刊号



Sozoromi-bu

第5回  
文字

今回は、水戸芸術館現代美術センター（茨城県水戸市）で開催されている

教育プログラム **高校生ウィーク** との連携企画。

二日間にわたってそぞろみ部が実体化し、

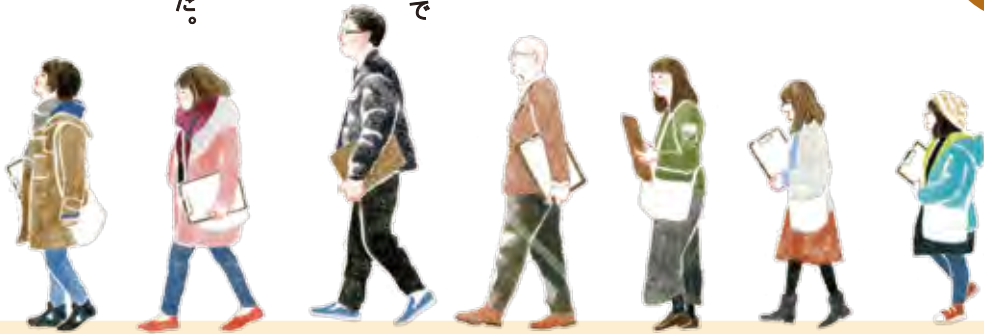
高校生から大人まで八名の部員とともに活動を行った。

予めテーマは設けず、初日に部員と話し合った結果

『文字』を求めてそぞろ歩くことに。

二日目にそれぞれの視点を持ち寄って

③『一つのそぞろみポイント』にまとめた。



そぞろみ部とは

あてもなくのんびり歩きながら身の回りのあれやこれやを観察し、造形的に捉え直す、そぞろ(歩く)＋みる部活動です。各地からの入部、大歓迎！皆さんのまちでもそぞろみて、暮らしの中にある形や色を見付けてみませんか。

### そぞろみポイント① 物語る文字

一口に文字と言っても、漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベットなど様々な種類がある。漢字の場合、文字そのものが意味を持つているわけだが、それをさらに拡張する事例も見つかった。『三和シャツ』の「和」のつくりは巻き込み式のシャツターになっている。口の形を活かして自社の商品をPR。新しい漢字が生まれる予感。もちろん、表音文字でもそれ自体が何かの形をあらわすことはできる。代表選手はうなぎ屋の「う」。水戸のまちにもひらがなのしなやかな曲線を活かしたうなぎが何匹も泳いでいた。南町ハーマニーロードのマークは「M」を象って手をつないだ家族の姿。なるほど、文字で物語るのではなく、文字が物語るのだ。

### そぞろみポイント② 変身する文字

雨風にさらされる野生の文字は時として意図せざる形に姿を変える。とある部員はビルの案内板の「3F」の一部がはがれて

「3ト(みと)」になった隠れメッセージを発見。同じはがれタイプでも「はばたきビル」は表面が

浮き上がって羽ばたく寸前。図らずも文字の側から言葉の意味に寄っている。他にも色あせタイプや上書きタイプなど変身の仕方は多種多様。地元の高校生が紹介してくれたそぞろみスポットの「大手橋」の欄干には謎の暗号「たほてはー」。昭和十年十二月竣工とあるこの橋、時代感を醸し出す古風な書きぶりが別の読みを導いている。経年変化という意味ではまちなかに潜む旧字体を探してみるのも面白い。マンホールに書かれた「辨」はデフォルメされて人の顔にも見えてくる。

### そぞろみポイント③ 主張する文字

文字にあふれる世界で人の目を引くためのこだわりに着目すると、その場所の個性が垣間見える。

#### ▼色にこだわる

苔むした茨城百景の石碑の周囲には「N/W/S/E」のアルファベットを刻んだ円形のプレート。東西南北を司る四神の色に対応して「黒／白／赤／青(？)」





3F



水戸飲食店組合

水戸



一個人



はばたきビル

金物や



BARBER

水戸名物 スター



部長

市川寛也 いちかわひろや (テキスト担当)  
東北芸術工科大学芸術学部専任講師。  
妖怪研究家。1987年生まれ。  
各地で「妖怪探集」と称するまち歩きを実践中。  
近著に『怪異を歩く』(共著、青弓社、2016年)。

副部長

danny だにー (イラスト担当)  
イラストレーター。1987年生まれ。  
京都精華大学卒業後、イラストレーターとして、  
書籍、web、広告などの媒体で活動中。  
色鉛筆で自然や日常の風景を描く。

部員

遠藤瞳、櫻村宙子、神野河優斗、小堀文剛  
近藤恵子、佐々木博子、白土舜稀、羽石英司

の石が使われている。ちょっとした東西融合。  
▼フロントにこだわる  
年季の入った床屋の壁面に造作された「BARBER スター」。鋭角な「スター」が昭和レトロの風情を醸し出す。同じカタカナでも喫茶店のアルルカンはくるとまわって語感にびったり。  
▼手書きにこだわる  
シンプルに「銘茶」と揮毫された看板はかすれ具合が味わい深い。「駐車厳禁」のメッセージも手書きの方が効果あり!? 手で文字を書くことが少なくなった現代、改めてその原点にも触れた気がする。

# ABC

## PICK UP

子どもの思いに身を重ね、先生に寄り添うABCシリーズ。  
4コマ漫画とともに、子どもや図画工作について  
楽しく学べる同シリーズより、  
今回は新学習指導要領に関する  
「新・図工のABC」の1ページを紹介します。

### 造形的な見方・考え方

図画工作では、深い学びにつながる【見方・考え方】を【造形的な見方・考え方】と言いますが、それは「自分の感性や想像力を働かせて、つくりつつあるものやかき表したいことについて、形や色、質感などから捉え、つくりたいものや表したいことのイメージを明確にして新たな価値をつくりだしたり、自分なりの意味を見いだしたりしようとする」ことです。これらは、学校教育にとどまらず、社会や人生においても大切にしなければならない【見方・考え方】です。つまり、図画工作は、作品づくりなど単に目に見える成果物を求めているのではなく、新しい価値や意味をつくりだすことに、教科の本質があります。



なぜ 図工を学ぶの?

絵がかけるようになるため??

感性や想像力を働かせて

見えないけど  
意味や価値を  
つくりだすこと

教科の本質

造形的な見方・考え方

ABCシリーズのラインナップ



著者紹介

阿部 宏行

1954年生まれ。北海道教育大学岩見沢校教授。  
中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会  
幼児教育部会委員、同 芸術ワーキンググループ委員  
(平成29年)、国立教育政策研究所 学習指導要  
領実施状況調査(小学校図画工作)結果分析委員会  
主査(平成26年)などを歴任。

ABCシリーズはWebでもお読みいただけます。



美術家  
齋藤ちさと

画面を漂う無数の泡に、

周りの風景が映り込んだ写真作品

「気泡」シリーズは、

美術家・齋藤ちさとさんの

現在も続く代表的シリーズである。

美術家としてのキャリアにおいて、

齋藤さんはいかに「泡」と出会い、

そのポテンシャルを

作品に取り込むことになったのだろうか。



気泡《露地》[1201\_1408]

[ラムダプリント／44.49×72cm]2016-17年

大学は版画料だったようですが、版画ではなく写真作品をつくり始めたのは、どのようなきっかけからでしょうか。

大学一年生の時に、池袋にあったゼゾン美術館で「マン・レイ展」を見たなかで、フォトグラム作品の不思議な感覚に衝撃を受けました。フォトグラムとは、カメラを使わない写真で、印画紙の上に直接ものを載せて光を当てると影の部分が白く写るといふ技法です。自分もフォトグラムの作品をつくってみようと、簡易な装置を購入し夢中になって制作しました。スパナ、卵の殻、フォーク、ボタン、手袋、植物、米つぶといった身近なモチーフを組み合わせて作品を構成していきました。A

大学を出たあとは、インスタレーション作品に展開していきますね。

ビニールシートに米つぶを貼って絵にする《rice dot drawing》というシリーズを始めました。何を絵にするかは直感的に選んでいて、歯型とかトイレとか（笑）、身近にあるものを粗いドットで表すことを考えていました。天井からビニールシートをぶら下げることで、表裏がなくなるインスタレーションで、私が後に「つぶつぶ」シリーズと呼ぶものの始まりです。B

「つぶつぶ」シリーズは、『ブッダの夢』——河合隼雄と中沢新一の対話（朝日

新聞社刊）という本との出会いが大きなきっかけになっています。そこで語られていたのは、チベット仏教の伝統的な思想と最先端の量子力学の内容とが一致しているということでした。それは、「世界は点の集積でできている」という言葉に集約されており、私は美術家としてアートでこの原理を表現してみようと考えたのです。

その後、「気泡」シリーズが生まれるわけですが、これも「世界は点の集積でできている」という考えの下に成り立っているのですか。

はい。「気泡」シリーズは当初は写真として始めたものではなく、ぎっかきは二〇〇五年に府中市美術館で行った公開制作「気泡研究所」でした。手描きの水彩を何枚も描いて、気泡のアニメーションをつくったのです。気泡にその土地の特徴的な色が映り込み、それははじめていくというイメージを表しました。

気泡をモチーフに選んだのは、「つぶつぶ」であることに加え、泡という存在が人間と似ていると思ったからです。泡は無色透明です。人間もまた、まっさらな状態でこの世に現れます。そして、育った土地の文化や周りの人の影響を受けながら人格が形成されていくのと同じく、気泡も周りのものを映すという点で、両者のあり方が似ているなど

感じたんですね。「気泡がはじける」アニメーションにしたのは、人は誰でも死ぬというメタファーです。人間の一生を泡に託すというコンセプトでした。この時、泡の動きを観察するために、コップに炭酸水を入れて撮影した写真が、後の「気泡」シリーズの原点となりました。

**初めはアニメーション制作の補助手段だったものを、どのように作品シリーズへ昇華していったのでしょうか。**

初めの頃は、エントリーモデルのデジタルカメラを使い、オートプログラムモードで撮影していました。シャッターを押すだけで、たまにいい写真が撮れるのですが、技術的な限界を感じていました。そんな折にウエディング写真を撮影する会社で働く機会を得ました。これ幸いと、カメラの使い方を一から勉強して、レンズの選び方や照明の設置、絞りやシャッタースピードの関係などを覚えしました。二〇〇九年頃のことです。撮影技術を身に付けたことで、本格的に「気泡」シリーズの撮影に取り掛かりました。

最初は雑貨屋で買った厚手のコップに炭酸水を入れて、コップ越しに風景を撮っていたのですが、コップの形の影響から風景に歪みが生じてしまいました。そこで、単行本くらいの高さで厚み三センチ程の水槽をつくって、歪

みの問題を解決しました。また、コップだとモチーフの一つとしての存在感が出てしまうのですが、水槽ではそうはならず、風景とカメラの間にフィルターを一枚挟んだようになることも都合合いました。この感覚は、私と作品との間に版がある版画の表現とも似ていて、私の性に合っているのでしょうか。

撮影には、水槽を持ち歩きます。右手にカメラ、左手に水槽を持って少しずつずらしながら、撮影するのが私のスタイルです。絞り値は、野外だとF5.6からF8くらい、室内だとF5.6からF4ほど。シャッタースピードは屋外なら1/250秒や1/400秒、室内だと1/60秒ほどが多いです。撮影は自然光です。室内でも照明は使わず、レフ版を立てて自然光を反射させています。撮影に向いている天候は曇りか雨降りの前後、季節は十一月から三月くらいに撮影をしています。日差しが強すぎるとギラついてしまい、泡がぶつくりと撮れません。泡の中の像の映り込みが美しいかどうか、作品のできればえを左右する大きなポイントです。

**水槽越しに捉えられた風景に加え、気泡にも風景がいくつも映り込んでいて、幻想的な世界観となっていますね。**

中国宋代の山水画は、「高遠」「深遠」「平遠」という三つの遠近法を用いて、広い空間を一枚の画面に凝縮しました。

また、子どもの頃から親しんできた生け花も、ミニマムな木と枝とで「絶景」をつくることを目指しています。同様に、「気泡」シリーズでは、カメラのレンズに私の視点によって切り取られた風景と、気泡というレンズによって捉えられたいくつもの風景が一つの画面に収められているのです。

ピントを遠方の風景に合わせるか、前景の泡に合わせるか、あるいはその中間に合わせるかによって、空間の見え方が大きく変わります。いい絵になるかどうかは、撮影データをパソコンで開いてみないと分かりません。一度の撮影で百枚撮って、作品になり得るものが三四枚あれば、「今日は大漁だな」というくらいですから(笑)。このシリーズにはずいぶん長い期間取り組んでいるのですが、空間の見え方は毎回まったく違って、飽きることがありません。“人”と、“人”を取り巻く環境“との関係に興味があって始めたシリーズですが、その組合せが無敵にあるように、「気泡」シリーズの可能性も尽きることがないのだからと思っています。

▼インタビュー動画は  
こちらから



## 斎藤ちさと／美術家

1971年 東京都生まれ  
1996年 女子美術大学大学院修了課程美術研究科版画研究領域修了  
2007年～ 東京農業大学農学部非常勤講師

仏教と素粒子論に共通する「世界は点や粒でできている」という考えにインスパイアされ、粒や点を通して世界を見るための試みとして写真・映像・インスタレーション・本などを制作している。個展やグループ展、アートプロジェクトなどで発表。また生け花や茶の湯にヒントを得たイベントも行っている。

### 【近年参加した主な展覧会】

- 2010年 “アーティスト・ファイル2010－現代の作家たち” 国立新美術館 “松戸アートラインプロジェクト”
- 2011年 “松戸の美術100年史” 松戸市立博物館
- 2012-13年 “虹の彼方 こことここをつなぐ、アーティストたちの遊飛行” 府中市美術館
- 2016年 “子育てと美術2016”(企画：mhR/会場：藍画廊)

## 文中に出てきた作品の一例

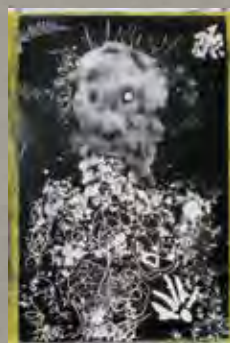


B

rice dot  
drawing  
[米、ビニールシート、  
ボンド]  
1998年

A

肖像  
[フォトグラム  
71.5×46cm]  
1991年



Vol.4

ワークショップ

# 形と色のセッション！

■二〇二七年四月二十九日(土)・三〇日(日)開催

マティスのように、  
形と色で遊ぶ。

あべのハルカス美術館で開催

された展覧会「マティスとル  
オー——友情五〇年の物語——」の  
関連企画として、「形と色のセッ  
ション！」を行いました。作品鑑  
賞と造形活動の相乗効果を狙い、  
観ることとつくることをどちら  
も体験することで、より深く創造  
の面白さを感じてもらいたい、と  
いう願いから企画したものです。

マティスの「ジャズ」は、切り  
紙絵を基につくられた作品です。  
伸びやかな形と鮮やかな色彩に  
あふれる作品をつくったマティ  
スのように、参加者に形や色の響  
き合いを楽しみながら切り紙絵  
をつくってほしいと考えました。  
もちろん、マティスの作品を真似  
することが目的ではありません。

切り紙絵というシンプルで誰に  
でも親しみやすい活動を通して、  
参加者それぞれが自由にイメー  
ジをふくらませて、自分なりの形  
と色で作品をつくる体験をして  
いただきたかったです。

形と色から、  
自由に発想する。

活動の手順として、まずは台紙  
と三枚の色紙を選ぶことから始  
めます。「この色とこの色は合う  
かな」「あれ、意外とこの組合せは  
いい感じ」など、色選びにも刺激  
があります。そして、思いのまま  
に色紙を切ります。はさみを使っ  
て即興的に切ってみると、思いが  
けない形が生まれます。それが何  
に見えるかを考えたり、組み合わ  
せて並べてみたりすることでど  
んどんイメージが広がります。

ここでは、具体的なものの形を切り  
出すときはまた別の面白さがあり  
ます。切って、並べて、想像  
して、さらに次の形を生み出して  
いく——そういう活動は、単純だ  
からこそ、人それぞれの発想が広  
がりやすい。中には、平面ではなく、  
立体にする子どももいて、見てい  
る私たちにも新たな気づきがあ  
りました。

制作時間は、ひとり一時間くら  
い。会期中に一八〇人ほども参加  
していただきました。最初は子ど  
もだけ参加すればいいと言ってい  
た保護者の方が、いざやり始める  
と子どもと同じように集中してい  
ることもしばしば。大人が子ども  
に「ああしたらこうしたら」と言  
うのではなく「そういうのもいい  
ね」と互いの表現のよさを味わい  
ながら活動を楽しむ姿が見られま  
した。

この企画をきっかけに、出張  
ワークショップを依頼されるな  
ど新たな広がりが生まれました。  
今後も積極的に外部とコミュニ  
ケーションを図ったり、私たち自  
身が外に出ていったりすることに  
で、より多くの方に造形活動のよ  
さを実感していただける新しい  
機会を提供できるのではないかと  
期待しています。

## work procedure



4  
つくり手の個性あふれる  
作品のできあがり。  
楽しい創作時間は  
あっという間。



3  
はさみを使って  
自由に色紙を切って  
台紙に並べて貼ります。



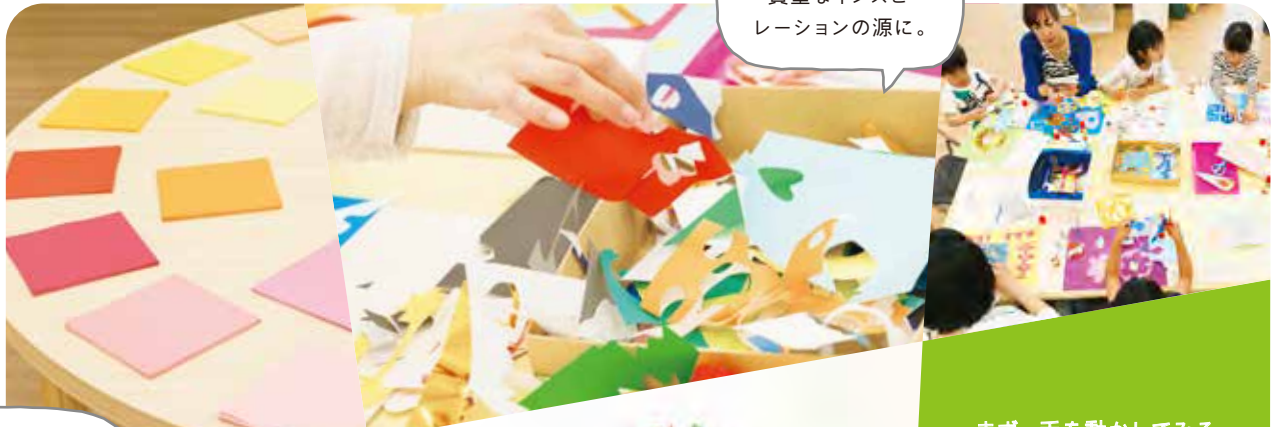
2  
色の組合せの  
楽しさを感じながら、  
切り紙絵用の色紙を  
3枚選びます。



1  
様々な色の台紙を用意。  
まずはベースとなる  
色を一つ選びます。

「こども美術館 スカイミュージアム」では、  
小・中・高の造形活動を紹介する展覧会や  
ワークショップなどを行うことにより、  
人と人が出会い、学び合える場を提供しています。

他の人の残りの紙も  
貴重なインスピ  
レーションの源に。



サポートスタッフに  
教えてもらって  
はさみの扱いも上手に。



まず、手を動かしてみる。  
そこから自由な創造が  
はじまります。



組み合わせると  
とんどんイメージが  
広がります。



**こども美術館 スカイミュージアム**  
大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43 あべのハルカス 27 階  
TEL・FAX：06-6690-0907  
E-Mail：info@kodomo-sky.jp

今後の予定

◎常設展示

水～金曜日 13:00～19:00、土日祝 11:00～17:00、月・火曜日休館  
(特別企画がある場合は、開館時間と休館日が変更になる場合がございます。)

◎《高校生とまちとアートをつなぐ》企画第3弾

12月16日(土)・17日(日) 10:00～17:00(予定)

詳しくは <http://kodomo-sky.jp> をご覧ください。▶





\*生徒の鉛筆スケッチ



\*生徒の鉛筆スケッチ



高校2年 いつもいつもの願いごと [油彩・キャンヴァス/116.7×90.9cm]  
「高校生の美術2」P17 掲載

「抽象」とは、どこから、なにから形をひきだすということであるといわれ、形は「象」とも書き、「抽」はひきだすことを意味しています。

画家パウル・クレーは「内面の世界は目に見えないが、それのある形象に置き換えれば見えるようになる。美術は、目に見えないものを見るようにする手段だ」と考え、さまざまな手法でそれを実行しました。

この作品のエスキースである\*鉛筆でのスケッチには、バスの中の座席から見つめた運転士の後姿や傘の形が描かれ、窓の外は、バスのスピード感を表すように勢いのある線が描かれています。油彩による作品では、運転士の姿は大きなハート型に単純化され、傘はシルエットが重なるように、また、窓越しに見える情景には、前を走る乗用車や対向車線のバスなどの形が描かれ、鮮やかな配色の組み合わせと絵の具の垂らしなどの効果によって、時間が止まっているような不思議な感覚にさせてくれます。

目に見える情景を観察しながら、見えない世界である心の中の願いごとを考え、十七歳の自分をしっかりと深く見つめ、現実と向かい合おうとしているように思えます。

あなたは、どう思いますか。

## 形 forme No.313-2017

日文教育資料 [図画工作・美術]

平成29年(2017年)10月18日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33369

制作: 株式会社 東京矢印

**日本文教出版 株式会社**  
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16  
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14  
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B  
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1  
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690